

第3回(通算4回)IODP 部会・執行会議 議事録(案)

日時：2005年7月22日(金)

時間：午後2時～午後4時50分

会場：海洋研究開発機構 東京事務所 役員会議室

出席者(15名)[敬称略]

執行部員：鈴木徳行(北海道大学) 阿波根直一(北海道大学) 白井正明(東京大学)
佐藤時幸(秋田大学) 荒井晃作(産業技術総合研究所) 山田泰広(京都大学)
巽好幸(JAMSTEC) 徐垣(JAMSTEC)

地球内部専門部会リエゾン：阿部なつ江(JAMSTEC)

MEXT：宮崎 貴雄、向後 毅

CDEX：伊藤 久男

事務局：山川、長橋、増田

欠席者：山本啓之(JAMSTEC)・木戸ゆかり(JAMSTEC)・石橋純一郎(九州大学)・
海野進(静岡大学)・佐柳敬造(東海大学)

[配布資料一覧]

議事次第

【報告事項】

1. 第1回(通算3回)メール会議の議事録(案)の確認

○阿波根委員よりメール会議の説明がなされた。会議の合意事項として、会議終了までに、修正があれば訂正し、速やかにホームページに掲載することになった。

2 IODP・委員会/SAS 委員の活動【配布資料4-2・参考資料・一覧表】

(1) ローテーションの基本的な考え方と進め方・国際パネル委員のローテーション

○資料4-2をもとに、事務局より説明がなされた。

- 「共同議長および議長は任期終了後、1年間委員として継続する」という提案を執行部の考えとし、本人の了承のもと、事務局と阿波根委員で調整していくことに決定した。
- 最初の会議出席日を起算日(任期期間中の第一回出席)とすることになった

(2) SPPOC・SPC 議長・副議長/パネル共同議長、議長・副議長終了後の対応について

○候補者について承認手続き状況を事務局から説明された。

- パネル委員ローテーション時期に関する一覧表は毎年チェックしていくことになった。
- SPC 委員交代に関して益田晴美先生が旧執行部ですでに承認されているにもかかわらず、現執行部で公募を行ったという不手際を事務局がお詫びし、益田 SPC 委員が徐前 SPC 委員の後任であることを現執行部が了解した。
- 今年度からメール承認事項は、承認期限を厳守し、返答がない場合は承認ということにすることを決定した。
- SSEP 共同議長候補者の専門性については、SPC で議論を交わしてもらおうということになった

3. 乗船研究者の研究支援関係【配布資料4-3】

○鈴木部会長より、事後報告だが、J-DESC から事務局を通し CDEX へ送付した支援依頼状と、今後の対処方針について報告、合わせて事務局から乗船研究者の自助努力の実績について報告された。その後の質疑応答は下記の通りである。

【意見】

- 会員機関に状況を伝えていけば、それ相応の対応ができたのではないか
- 乗せるだけ乗せて Sampling Party も Post Cruise Meeting も行けないというようになるのが一番よくないことではないか
- 自分でお金を出してでも行くという自覚がないと、乗船したが何も出来ないという状況が増えるので、乗船人数を減らしてもいいのではないか。
- しかし、J-DESC の立場からすると、日本人研究者が J-DESC を通しサイエンスを発展させていくため、たくさんの研究者に乗船を推進していきたい。
- J-DESC として JAMSTEC が予算要求する時にこういう依頼書をだしていくべきでは。
- J-DESC の将来を考えたら我々自身が努力していかなくてはならないと思う。
- JAMSTEC ・ CDEX と協力し、問題を解決していければ日本の発展につながるのではないか。
- 今後も乗船研究支援の依頼を JAMSTEC に続けていくべきですし、J-DESC 会長が JAMSTEC 理事長に話しに行くなどすべきではないか。
- 経費の使い方として、枠としての自由裁量は認められないのか。
- 乗船経験からいって、エージェントで航空チケットなどを取ってもらうと無駄がかなり多いが、自分で取る切り詰めることができる。たとえば、7日間アメリカに滞在すれば、往復料金は半分になる。
- 節約にはなるが、個人で管理するとなると会計処理上難しい。
- 各法人に対して、中期計画・中期目標に、IODP の掘削の目標文言を掲げて明記してもらうことが重要。

4. 深海掘削委員会報告-追加議題

○異委員により、第1回深海掘削委員会評価小委員会について報告があった。この委員会は、航空・電子等技術審議会の答申からはじまった IODP が実際動き出し、その答申以降のこれまでの IODP の評価と今後の方針を決めることが目的であり、今回は第一回目ですので、J-DESC としての取り組みを報告し、今後は、文部科学省海洋地球課と協力して答申して頂くお願いをしていきたいと報告がなされた。尚、評価小委員会は全部で3回あり、2回目で案文をだし、3回目で承認するという予定。2回目は8月末の予定。

5. Frascati 報告への J-DESC の見解

○J-DESC として今月末に見解をまとめ IMI のプレジデント (Dr. M. Talwani) に提出するため、阿波根補佐より資料4をもとに説明され意見交換がなされた。

【意見】

- 文部科学省からの意見は、この会議は、あくまで私的で開催されたものであり、この Report 自体を認めることはできない。始まって2年目で SAS 構造を変えるのは、問題である。しかし MT (Mission Team) の新設については今後の CDP (Complex Drilling Project) に関して重要であるので、十分議論してほしい。
- MT は望ましいシステムなので、J-DESC として賛成という文章をつくり、事前に執行部員へ配布し、2, 3日で意見を求めることになった。
- J-DESC として、この会議は私的な会議という危惧を表明すること。

6. J-DESC 法人化についての報告

○鈴木部会長から、資料5に基づいて、中間報告（鈴木部会長と徳山・浦辺委員と弁護士で検討）として、今年度末にNPO法人として申請する予定であることを説明された。

【意見】

- NPOでは会員加入のところでひっかかるのではないか。NPOは誰でも加入できることと情報公開が前提でなければならない、しかし誰でも入れるところに文部科学省がお金をだすかどうか。
- 文部科学省と相談する必要がある。
- J-DESCを自分たちの力でやっていきたいが、それには、法人化することが必要。
- 現在、賛助会員に対する見返りが無い。
- JAMSTECから自立しても他の機関に依存しないようにすべき。
- 最終的には、MEXTから直接資金が提供されるべきメカニズムを考慮した団体にすべき。
- ICDPとIODPでは、全くシステムが違う。ICDPは民間企業が入る余地があるが、IODPはそうはいかない。
- 法人化に際して、背景情報等の収集と、会員機関への正しい情報の提供が必要。

7. J-DESCによる掘削提案育成に関する提案

○異委員より、資料6に基づいて、我が国のプロポーザル数（Solicited Program）を促進していくために、タスク・チームをできるだけ早く作ることの重要性の説明がされ、その結果、J-DESCとしてタスク・チームを作ることが承認された。

【意見】

- J-DESCとして掘削提案数を上げるため、執行部と専門部会でMission Team(MT)又はTask Teamを早く作る必要がある。コア・メンバーを決定し、プロジェクトを育成していく。
- 「ちきゅう」を使用した（ライザー掘削）提案がないと困る。国内ワークショップの開催、そして、国際ワークショップの開催、SPC/SPPOCの承認、掘削までのロードマップをつくる。こうすることで、中期計画にいれやすくなる。「ちきゅう」をoperateする側（IO）の意見としては、少なくとも3つの提案が必要。
- 執行部会の各専門部会担当者と部会長そして執行部会長が構成されるタスク・チームを早急に作りメールベースで検討することが決定した。

8. その他

（1）IODP国内科学計画委員会の今後の進め方

○事務局より、資料7に基づいて、説明がなされた。

【意見】

- J-DESCとしては、何をやるのかを最初に述べるべき。やること、やらないことを区別する。
- 小泉委員会の役割は、IODP国内科学計画の円滑な推進のために、JAMSTECに対して意見を述べること。
- 8月開催目途に第三回目の委員会で集中議論をする。

（2）J-DESC News Letterの発行（案）

○事務局より、資料4-8に基づいて、J-DESCニュースレター第1号の草案について説明がなされた。ニュース記事として、科学掘削提案の育成と実現化に向けた科学的な記事を掲載すべきだという意見に従い、事務局で対応することを確認した。